

白糠漁業協同組合の新たな挑戦を支援

ホタテの増養殖に向けた 実証試験の開始



7割が育てば成功ですが 最初は1～2割が育てばいい方

今年度、白糠漁業協同組合（以下、白糠漁協）は、ホタテの増養殖事業に向けた実証試験を開始します。昨今の漁業は、温暖化に伴う高水温化などの環境変動により、漁獲の不振が続いています。

また、太平洋沿岸で発生した赤潮の影響による漁業被害など、大変厳しい状況にあります。こうした中、安定した漁業生産や高齢者でも就労可能な増養殖への取り組みはニーズが高く、漁業者をはじめ町民の関心も高まっています。

町は、新たなチャレンジに臨む白糠漁協への支援を通じて、ホタテの増養殖の振興を図ります。

今回は、地域活性化支援員（水産支援員）として4月1日に着任した小倉順さんと、白糠漁協の柳谷司法代表理事組合長に、それぞれお話を聞きました。



小倉順（おぐら じゅん）さん
昭和35年5月25日生まれ。岡山県岡山市出身。北海道大学水産学部かん水増殖学科卒業後、湧別漁業協同組合に就職。2018年3月末に退職し、札幌市で暮らす。2021年9月から白糠漁業協同組合に勤め、2022年に町の地域活性化支援員（水産支援員）となる。妻との2人暮らし。趣味は野球観戦

小倉順さん（以下、小倉さん）私は、オホーツク管内の湧別漁業協同組合（以下、湧別漁協）にいたのですが、そこでは主にホタテの養殖をやっていました。ホタテの稚貝をつくって放流し、育てて漁獲するという通りの作業です。ですが、日本ハムフアイターズの試合が見たくて、定年を前にして退職し、札幌市へ引っ越しました。札幌ドームまで歩いて行ける距離に住みながら、年間50試合くらいを見て過ごしていたのですが、湧別漁協の元上司に白糠町の出身の方がいて、その方から「白糠町に力を貸してほしい」と頼まれて、今回、白糠町へ来ることになりました。

——小倉さんは、地域活性化支援員として、どのような仕事をするのでしょうか。
小倉さん まず稚貝を買ってきて、白糠の海に放流するという作業があります。その後は、それが育つかどうかを見守るという仕事ですね。稚貝を海に放流した後は目では見えませんが、ホタテをとるケタ網、その長さから「八尺」と呼ばれていますが、八尺に水中カメラを設置して、漁獲するときに海の中の様子を確認します。ホタテは八尺で引っ張り上げて、大きさを確認したり、生息を確認したりします。

——ホタテの稚貝はどれくらい放流するのでしょうか。
小倉さん 1000万粒を5月中旬くらいに放流する予定です。ホタテの養殖を本格的に行っているオホーツク海側では、3億粒の稚貝を放流していますので、1000万粒といってもテスト用の数です。オホーツク海では、3億粒の稚貝をまいて、それが3年経って150号ほどの出荷可能な大きさに育ちます。それでも途中で死んでしまったり、どこかに流れてしまうなどで、実際にとれるのは2億粒くらいです。

このホタテの増養殖事業は3年間



湧別漁協によるホタテ漁獲の様子

の事業計画で、毎年1000万粒ずつを、いろいろな場所へ放流します。もしかすると、育つ場所があるかもしれないかもしれませんし、どこもかしこも育たないかもしれません。オホーツク海での養殖が、なぜ成功しているのかというと、それは元々ホタテがそこで育っていたからです。ホタテがいるということは、ホタテが育つ海だということです。ですが、太平洋にはホタテがいまいません。ということは、昔からホタテが育つ海ではないということなのです。サケやシシャモと同じで、本州の海にサケを放流しても戻ってきませんよね。

——1000万粒の稚貝がどれくらい育てば成功と言えるのでしょうか。
小倉さん 7割が育てば成功と言えますが、最初は1～2割が育てばいい方だと思います。1000万粒の稚貝が3年経って、100～200万粒とれるかどうか、といったところですが、ホツキの場合は砂の中で育つのですが、ホタテは砂の上で育ちますので、海が荒れると流されたりにして死んでしまうのです。気象条件などにより大きく左右されますので、そういうことを見極めながら、放流する場所を考えていきたいと思っています。



——小倉さんが以前いた湧別漁協で稚貝はつくれないのでしょうか。
小倉さん 湧別はサロマ湖という湖があり、そこで自分たちで稚貝をつくって放流しているので、効率がいいのです。でも、稚貝をつくるよりもホタテを育てる方に力を注いでもらうので、稚貝をつくる場所が湖の一部と限られていますから、たくさんつくることはできません。日本海側は、ホタテの稚貝をつくる専門の漁師がいますので、それなりに数を増やせると思いますが、毎年決まって何億粒も購入ということにでもならなければ難しいのではないのでしょうか。新たに稚貝をつくらなければならないように、交渉していくことが必要になると思っています。

——太平洋側の海で育てるのは難しいということは分かりましたが、ほかにも課題はありますか。
小倉さん もし育つたとしても収支が成立していなければ意味がないですよ。2億円で稚貝を買ってきて1億円分しか育たなければ赤字です。もう一つは、ホタテの稚貝を売ってけるところがあるかどうか、